

近現代史(45)「WW I 後のインド独立運動の展開」

○今回のポイント

ガンディーによりインドの独立運動は一部の知識人の運動から大衆運動へと転化した。だが宗教的な対立によってインドは分離独立することになった。

【インドでの民族運動の展開】

(1)第一次世界大戦後のインド

☆戦争と社会契約

○1917年、インド相[1. モンタギュー]は戦争協力を条件に自治を約束。

↓ ⇒ WW I で大量のインド兵が戦線に送られ、多数の戦死者を出す。

○[2. 民族自決]の国際世論のもと、自治を承認。

↓

○しかし・・・そんなことはなかった！！

☆1. [3. 1919年インド統治法]では州行政の一部をインド人に委ねたものの、中央はイギリスが掌握し続けるものであり、自治とはほど遠い内容。

↓ ☆2. [4. ローラット法]でインド人に対する令状なしの逮捕、裁判抜きで投獄を認める！

○[5. アムリットサル事件]

・独立約束の無視とローラット法発布に対するパンジャブ地方のアムリットサル市での抗議集会に、イギリス軍が発砲し、1000名以上の死傷者を出した事件。インドの反英運動は激化した。

(2)ガンディーの登場

・1888～1891 [6. ロンドン]に留学、弁護士資格を取る。

・1893～1915 [7. 南アフリカ]で弁護士業。インド人移民労働者への差別に対し、非暴力運動を展開。差別撤廃運動に勝利した。

・1915 ガンディー帰国。熱狂的な歓迎を受ける。

(3)ガンディーの運動と挫折

(a)[8. 非暴力・不服従運動]の展開

・不当な法令への不服従、納税の拒否、公職の放棄、イギリス商品の不買、国産品の使用などをつうじて独立を勝ち取ろうとするもの。

☆ガンディーの歴史的意義

→従来ほぼ都市の知識人層に限られていた民族運動を、一般大衆の参加する全インド的な運動へと高めたこと。

(b)ムスリムとの連携

・[9. キラーフアット運動](ヒラーファット運動)・・・オスマン帝国の[10. カリフ制擁護運動]。WW I でオスマン帝国が敗北したが、インドのムスリムはこれをカリフ制の危機と捉え、イギリスの対トルコ政策に抗議する運動を展開した。結局、トルコ内部で1922年に[11. ケマル]が革命を起こし、カリフ制も24年に廃止され運動は退潮した。

(c)運動の挫折

・1922年 農民による警察官殺害事件が発生したため、運動の暴力化を怖れて停止された。

(d)ムスリムとの分裂

・ムスリムは反国民会議、親イギリス路線を歩むことになる。

(4)1927～34年のインド

(a)[12. サイモン]委員会問題 (1927)

- ・インド統治法改正のための調査を目的とした[13. 憲政改革委員会]にインド人が一人も含まれていなかったため反英民族運動が活発化した。

(b)インド国民会議[14. ラホール]大会(1929)

- ・指導者はネルー。「完全なる独立」の意味である「15. プールナ=スワラージ」を決議。

(c)第二次非暴力不服従運動(1930～34)

- ・[16. 塩の行進](1930)…塩の専売法に反対したガンディーが1930年、アフマダバードからダンディの海岸まで360kmを80人で29日間行進し、自ら塩を作る作業を行った。巡礼を思わせる行進は熱狂的に支持され、反英運動をさらに高めた。

(d)[17. 英印円卓会議](1930～32)

- ・独立運動の抱き込みと抑止のために、イギリスがインド側の指導者をロンドンに招いて開催した。1930～32年にかけて3回開催されたが、失敗に終わった。なおガンディーは運動を中断して第2回会議に参加している。

(5)1935年～WWIIのインド

(a)新インド統治法

- ・[18. 1935年インド統治法]

⇒州政治はインド人に委譲されたが、中央の財政・防衛・外交はイギリスが掌握し続けることになり、完全独立の要求とは程遠いものであった。

- ・1937年…新インド統治法による州選挙

⇒国民会議派が多数の州で政権を獲得。ムスリムが多数を占める州では、ムスリムを首班とする地域政党が勝利した。

(b)ムスリムの動き

- ・[19. ジンナー]総裁

⇒1924年、[20. 全インド=ムスリム]連盟の総裁にジンナーが就任。ムスリム大衆への浸透をはかってしだいに勢力を拡大し、対英協力・反ヒンダーの立場を強める。1930年代の非暴力不服従運動への協力も拒んだ。

(c)第二次世界大戦とインド

i.国民会議派の抵抗

- ・[21. 1939]年9月 イギリスの対ドイツ宣戦布告と共にインドもWWIIに参戦。

⇒国民会議派、独立の為の好機到来ととらえて運動を展開。

- ・1940 ガンディーの不服従運動が展開

- ・1942「[22. クイット=インディア]」(インドを出ていけ)運動

イギリスは大弾圧！
会議派は消耗

ii.全インド=ムスリム連盟の跳躍

- ・1940、ムスリムの清浄な国家[23. パキスタン]の建設を決議。

iii.分離独立

- ・WWII末期、イギリスの国力低下、インドの独立に好意的なイギリス[24. 労働党]政権により、独立の達成が目前に迫るが、分離独立を主張する全インド=ムスリム連盟と反対するインド国民会議派の対立が激化。

- ・1947年、[25. マウントバッテン総督]による分離独立の裁定

⇒ 8月15日[26. インド連邦]と[27. パキスタン自治領]が誕生。